

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良市立済美南小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒630-8141 奈良県奈良市南京終町 676
E-mail seibiminami-e@naracity.ed.jp
Website naracity.ed.jp
幼児児童生徒数 男子 84 名 女子 130 名 合計 214 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

ユネスコスクールとして、国際理解教育や奈良市が進める世界遺産学習に ESD を取り入れ、学習活動を進めている。本校の児童の実態に即し、次の 3 つをねらいとして学習を進めた。ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度の中の「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」である。特に、「多面的・総合的に考える力」は、国際理解教育を通して、つけていきたい力である。

① 金文小学校児童 20 名、引率教員 3 名が来校し、本校児童と交流。

「韓国・金文小学校」の団体を歓迎・交流したことで、文化の違いや共通点を実感した。異文化を尊重する姿勢が見られ、多面的・総合的なものの見方を育むことができた。また、言葉が通じにくい中で、習いたての英語を使い、身振り手振りをまじえてコミュニケーションを取る児童の姿があった。単発の交流にならないように、ICT を活用した交流 (テレビ電話) や児童の作成物の交換を行い、年間計画を作成することで 1 年間を見通した取り組みとして実施した。

② 本校職員3名が金文小学校を訪問。「韓国・金文小学校」の児童と交流

「韓国・金文小学校」を4年目で初めて訪問した。日本の教育との違いや韓国の教育の工夫を学び、本校の教育活動や今後の交流の発展につながった。「韓国・金文小学校」へ訪問した話を児童が目を輝かせて聞く様子や、たくさん質問して「韓国・金文小学校」のことを知ろうとする姿勢を実感することができた。また、相互の交流会を通じて、ESD や国際理解教育に本校が取り組んでいることを保護者や地域へ啓発することができた。

交流は、継続が第一と考える。直接会う交流を充実させながら、ICT を活用した交流や児童の作成物交換など、持続可能な交流機会を確保していきたい。

③世界遺産学習は、奈良市の小学校5年生で実施している。東大寺や平城京跡など奈良市の世界遺産に注目し、地域に根付いた学習を実施することで、奈良に誇りをもち幅広い教養を身に着けた児童の育成を目指している。本校では、東大寺や春日大社に現地学習へ行き、歴史や文化にふれるだけでなく、世界遺産を守ってきた人々の活動や思いにもせまる学習活動を実施した。



① 韓国交流の全体会の様子



② 韓国交流会 出し物



③ 韓国金文小学校への訪問



④ 韓国の給食

(2) 活動の詳細

① 活動内容

本校は小規模校であり校区も狭いため、限られた人間関係の中で生活している児童が多い。そのため、固定観念や偏見にとらわれやすく、コミュニケーション力にも課題がある。また、多様な視点で物事を見る力が弱く、ともすれば排他的になりがちである。そこで、韓国慶州市金文小学校との交流を通して、国際理解教育を進めている。本校の児童の実態に、国際理解教育は大きな効果が期待できる。多面的かつ総合的なものの見方を身につけさせていくために、自分と異なる意見を容認したり異文化を尊重したりする学習を進めている。奈良市が進める世界遺産学習や教科との横断的な学習を通して、社会の担い手を育む。

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・児童の学習の作成物。金文小学校パンフレット。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

韓国金丈小学校との取り組みでは、多面的かつ総合的なものの見方やコミュニケーションを行う力、他者と協力する態度などを身につけさせていくために、自分と異なる意見を容認したり異文化を尊重したり学習活動に重点を置いている。総合的な学習の時間を軸としながら、外国語活動、低学年生活科、高学年社会科など教科横断的な年間指導計画を作成している。また、交流日当日だけの取り組みではなく、ICT を活用したテレビ電話での交流や学習作成物の定期的な交換を通して、事前事後の指導ができるように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は小規模校であり、交流を全校児童参加で行うことができる。交流内容として、全学年参加の歓迎式典や授業交流、給食交流を取り入れることで、学校全体の活動として実施している。また、本校代表として韓国の慶州市金丈小学校に訪問した教員から訪問内容に関する研修を受けることで、組織的な活動にしている。奈良市教育委員会や奈良市の観光課とも連携して交流を進めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

奈良市教育委員会や奈良市の観光課、交流先の金丈小学校の意見。さらに校内の総括を経て、活動の振り返りを行っている。振り返りから分かる成果として、

1, 「韓国・金丈小学校」へ訪問した話を児童が目を輝かせて聞く様子や、たくさん質問して「韓国・金丈小学校」のことを知ろうとする姿勢を実感することができた。

2, 相互の交流会を通じて、ESD や国際理解教育に本校が取り組んでいることを保護者や地域へ啓発することができた。

課題としては、交流の継続の難しさである。直接会う交流を充実させながら、引き続き ICT を活用した交流や児童の作成物交換など、持続可能な交流機会を確保していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校ホームページで金丈小学校と交流の様子を発信しているが、ESD の推進拠点としての役割までには、至っていない。今後の課題として、活動内容の発信方法の拡大、広報活動の充実が挙げられる。効果としては、地域の方や保護者の方へ ESD の取り組みを啓発することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

韓国金丈小学校との取り組みではないが、奈良教育大学のユネスコクラブと連携し、自然環境学習や地域学校行事に取り組んでいる。例えば、野外活動や本校独自開催の親子燈花会に学生が参加し、教員と連携して活動を行っている。他には、ACCUの学校と取り組みを交流している。特に奈良市は、5年生でどの小学校も各実態に応じた世界遺産学習に取り組んでいるので、奈良市の小学校と活動内容の情報交換や交流をしながら進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国際理解教育を進めるため、韓国慶州市金丈小学校との交流をしている。ESD アシストプロジェクトによる助成や奈良市教育委員会、奈良市の観光課、奈良教育大学ユネスコクラブ、元興寺研究所、JAなど学習に応じて様々な機関と連携している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

様々な学習活動と ESD の活動がかみ合った結果であるが、児童の学力向上や多面的・総合的な考え方、他者と協力する態度などが醸成された。県の学力テストや学校評価アンケートの結果から成果として挙げることができる。本校の教育目標である「学ぶ意欲と豊かな心をもった児童の育成」に ESD の取り組みが繋がっていることを実感した。また、地域・保護者に ESD の取り組みを啓発することができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間を中心に ESD の取り組みを進めていく。
下記は総合的な学習の時間の活動計画の一部。

内容・単元

	1学期	2学期	3学期
3年	わたしたちの町 のいいところ	めざせ バリアフリー	こんなにももしろい 奈良公園
4年	平城京の秘密	奈良のシカ	伝えよう感謝の気持ち 二分の一成人式
5年	自然環境学習	世界遺産学習	済南遺産 「幻の福寺」
6年	平和学習	韓国と国際交流	将来の自分を 考えよう
ひまわり	交流活動 飼育栽培活動	自分の体を知ろう 自分のやりたい仕事を考えよう	